

## 自然災害等への対策を 行いましょう

近年、自然災害等が多発しており、農林水産関係の被害額は増加傾向にあります。

埼玉県でも、平成26年に大雪による被害、平成30年には台風による被害が発生しました。

これからの季節は降雪に備え、園芸用ハウス等の点検、補修等を確実にいきましょう。また、自然災害等のリスクに備えるため、BCP（事業継続計画）の作成や、園芸施設共済等の農業保険の加入

も検討しましょう。

### 1 ハウスの雪害対策

左表のチェックリストを活用しながら、事前・降雪時対策を徹底し、雪害を防止しましょう。

また、降雪時は倒壊の恐れのあるハウスには入らないなどの作業の安全確保に努めましょう。

#### (1) 事前対策

雪の滑落を妨げるネットなどの資材を撤去しましょう。

ハウスの補強資材・固定部分の点検および積雪により負荷がかかる部分には筋交い・支柱で補強しましょう。

表 降雪に対する農業用ハウスのチェックリスト

項目	チェック項目	チェック欄	
降雪に関する気象情報が出たらチェックしましょう。	1	屋根雪の滑落を妨げるような屋根被覆材表面の突出物の撤去（防虫・防風ネット、遮光資材等）	
	2	ブレース、ボルト等補強資材や固定部品の締直し	
	3	暖房機の燃油残量や、電源、配線、給油配管等の確認	
	4	ヒートポンプの室外機が雪に埋まらないよう周辺の対策	
	5	除雪・融雪等による湿害対策のためのハウス周辺の排水路整備	
雪が降り始めたらず、降雪時の対策を確認してから作業に入ります。	1	雪が積もったら速やかな雪下ろしを行う	
	2	屋根雪とハウスサイドの雪が繋がると落下しなくなるため、ハウスサイドの除雪	
	3	ハウスの片側に偏って積雪すると倒壊の危険が増すため、ハウス両側を均等に除雪	
	4	室温を高め、屋根雪の滑落を促進するため、暖房機の稼働、カーテンの開放	
	5	暖房機未設置のハウスはカーテンを開放し、地熱の放射による屋根雪の滑落促進	
	6	ヒートポンプの室外機が雪に埋まると機能しなくなるため、ヒートポンプ室外機周辺の除雪	
	7	施設倒壊の恐れがあるため、ハウスの屋根に積雪がある場合は中に入らない	

暖房設備の点検と燃料残量を確認しましょう。

#### (2) 降雪時対策

カーテンを開け、暖房機を稼働させましょう。また、積雪時には、作業者の安全確保に努めつつ、速やかに雪下しを行いきましょう。

#### (3) 降雪後対策

施設の破損、倒壊が生じ、軽微な場合は早急に修復を行い、低温による作物の被害を防止しましょう。ただし、作業や見回りを行う際は一人で行わず、必ず複数人で行うようにしましょう！

## 2 自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCPについて

BCPとは、自然災害や感染症、大事故が発生した場合においても、中核となる事業を継続させたり、可能な限り短時間で事業を復旧させたりするための方法、手段などをあらかじめ取り決めておく計画のことです。

BCPは決して難しいものではなく、経験として既に備わっていることも少なくありません。それらを「見える化」することで、自然災害等への備えとなるだけでなく、平常時における自らの経営の見直し、改善にも繋がります。

チェックリスト、農業版BCPのフォーマットについては農林水産省のホームページに掲載されておりますので、ぜひ、ご活用ください。

※「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCP」より引用

### 3 園芸施設共済と収入保険について

#### (1) 園芸施設共済

園芸施設共済は、農業用ハウスのための保険です。もしもの時、ハウス再建を手厚くサポートします。補償対象となる災害には、風水害・ひょう害、雪害、落雷、地震、火災、破裂・爆発、鳥獣害、病虫害があります。また、ハウス内の農作物は収入保険への加入がおすすめです。

#### (2) 収入保険

収入保険は、自然災害や価格低下だけでなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少が補償の対象です。青色申告を行っている農業者（個人・法人）が加入できます。保険期間は、個人では1月～12月、法人では事業年度の1年間となっております。

※ご相談は、埼玉県農業共済組合北部統括支所までお願いいたします。